

#### (4) 第15回 先端加速器科学推進シンポジウム

日 時：平成25年1月26日

場 所：長野県松本文化会館（キッセイ文化ホール）国際会議場

共 催：信州大学

後 援：高エネルギー加速器研究機構

テーマ：先端加速器の世界 いのちを守る、宇宙を創る

参加者：150名

概 要：

1月26日(土)、長野県松本市の松本文化会館(キッセイ文化ホール) 国際会議室にて、信州大学と先端加速器科学技術推進協議会(AAA)主催の先端加速器科学技術推進シンポジウム2013 in 信州「先端加速器の世界 いのちを守る、宇宙を創る」が開催され、およそ140名が参加しました。

開会に先立ち、信州大学の山沢清人学長が主催者挨拶を行いました。山沢学長は先端加速器について「人類の幸せにつながるツールになりえる」と説明。「ぜひ子どもや孫など若い世代にも今日のシンポジウムの内容を伝えて」と来場者に呼びかけました。

シンポジウムは信州大学の竹下徹教授による「先端加速器の世界」と題した講演で始まり、辻井博彦氏(放射線医学総合研究所フェロー)の「ここが違う 重粒子線がん治療」、鈴木厚人 KEK 機構長の「ビッグバンを再現する究極の加速器 国際リニアコライダー計画」についての講演が行われました。

竹下氏は、加速器を「見る・作る・治す・探す・究める」をキーワードにして紹介。様々な用途で使用される加速器について事例を挙げて解説しました。

辻井氏は、1899年に始めて本格的に行われた治療例に遡り、加速器を用いたがん治療の歴史を紹介しました。辻井氏は「外科医が使う『メス』が放射線治療における『加速器』としたうえで、放医研での重粒子線によるこれまでの治療例は7000件以上であり、治療後の生存率も外科手術と同等であることを紹介し「安全な治療が達成されている」と述べました。

鈴木氏は、国際リニアコライダー(ILC)で解明することの出来る物理学についての解説を行った後、KEKの試験加速器施設における研究開発の状況や、日本創成会議によるILC誘致に関する提言の発表など、日本におけるILCへの取組みを紹介しました。講演の最後に鈴木氏は「国際的な大型科学施設の日本への誘致という機会はめったに無い。ぜひご支援をお願いします」と協力を訴えました。